

南青協便り 第230号



南米産業開発青年隊協会会報

2024年12月10日発行

Boletim n.230 Seinentai do Brasil : Edição 10 de Dez. de 2024



富士宮市内、車道沿いの建築工事現場の小型パワーショベル



午後4時、やっと晴れた雪の富士山、宝永山は雲で見えません

目次(第 230 号) ÍNDICE(n.230)

一、表紙：上、建築工事現場の小型パワーショベル	
下、やっと晴れた雪の富士山、富士宮市にて 1
一、Índice 目次 2
一、2024 年を振り返って	会長 渡辺進 3
一、会計報告 (9、10 月分)	サンパウロ 8 期 長田譽歳 4
一、富士山	サンパウロ 8 期 長田譽歳 5 ~7
一、自分史 (5 0)	ポルトガル 1 0 期 岡井ゆししげ 8 ~11
一、被団協にノーベル平和賞	在ブラジル被爆者も感激
	サンパウロ 6 期 盆子原国彦 12~13
一、日々雑感	サンパウロ 6 期 盆子原国彦 14
一、大統領選はトランプの圧勝だった	
	サンパウロ 9 期 貝田定夫 15~16
一、 <small>ほうおうぼく</small> 運のない男。鳳凰木 3 種の花	
	フォス・ド・イグアスー 齋藤信夫 ... 17~21
一、ペルー国の港湾建設について	ジュンジアイ 9 期 荒木昭次郎 ... 22
一、当年にとって、なんと 8 5 歳	広島県 6 期 三戸伸晃 23
一、頂上付近を望遠レンズで撮影。雪と雨が裾野で出てきての川 24
一、 <small>かななみ</small> 東海道線で <small>にらやま</small> 函南へ行き、 <small>あたま</small> 葦山と熱海を訪問しました	
	富士宮 8 期 志方進 ...25~29
一、【編集委員】 【次号予定、お願い】 【編集後記】 30

2024 年を振り返って 会長 渡辺進

今年も残り僅かになりました。

南米産業開発青年隊協会の活動は、新年会、南青協便りの発行、慰霊祭、そして毎月の月例会と元気に終わることができました。

それぞれの行事を隊員とその家族で和気あいあいと力を合わせてやってきました。

来年も皆さんで力を合わせて楽しく青年隊活動をやっていきましょう。

簡単ですが御挨拶といたします。

皆様ご苦労様でした。よいお年をお迎えください。



南青協月間会計報告（9月分）

2024年9月30日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	8月よりの繰越分			27.070,52
11/Set	慰霊祭飲み物	104,04		
11/Set	年会費 10期平島征也氏(276)		200,00	
15/Set	慰霊祭法要	1.410,00		
15/Set	年会費 1次磯中晴子氏(01)		200,00	
15/Set	年会費 5期菊地義治氏(89)		200,00	
15/Set	年会費 8期吉田大吉氏(221)		200,00	
31/Set	Etiqueta 会報用	35,30		
31/Set	会報 229号 Copia	1.111,05		
31/Set	会報 229号 Correio	794,65		
	Rendimento		143,62	
	Total	3.455,04	943,62	24.559,10

南青協月間会計報告（10月分）

2024年10月31日迄

Data	Descrição	Débito	Crédito	Saldo
	9月よりの繰越分			24.559,10
15/Out	住所録エチケット交換差額	60,00		
19/Out	月例会 Aluguel	100,00		
	Rendimento		145,94	
	Total	160,00	145,94	24.545,04

<p>Bradesco の支店番号と口座番号 Extrato Conta Corrente Takatoshi Osada Agência 1480 Conta 0033226-7 Disp.P / Poupança</p>	<p>Saldo Total</p>	<p>24.545,04</p>	<p>Agência 1480 Conta 33226-7 Takatoshi Osada CPF 698.506.588-00 CEP 04371-000 Cheque の送り先 Takatoshi Osada Rua Rishin Matsuda, 467 Vi. Sta. Catarina Jabaquara - SP</p>
---	---------------------------	-------------------------	--

高校を卒業してブラジル移住を志し、県庁の海外協会に行き説明を受けると、コチア青年の移住枠があると言われる。係員は茨城県にその訓練所が有り、数日の訓練の後に移住許可が下りると言われる。

その手続を進めている時に、私の部落内の町役場で収入役（会計係）として働く父の友人が産業開発青年隊の募集ポスターを持って来て、こんなブラジル移住の枠があると言われる。それによると一年間の重機技術訓練を受けた後に移住すると言われ、父はその方を強く勧める。

その為には静岡県の沼津市で選考試験が有ると言われ、受験の為の手続をして貰う。その試験当日の4月中旬には、長野県から来た3人と山梨と静岡から一人ずつの5人で試験を受けて結果を待つが「待てど暮らせど」一向に合格の知らせが来ない。試験はまあまあに出来たと思っていたのですが、どうしたものだろうかと思案に暮れる。

待つこと一ヶ月半にて、五月下旬集合の連絡を受ける。後で分った事は長沢師の構想は沼津で幹部隊の養成を行う予定でしたが、その許可が下りず、取りあえず初年度は一般隊員を長野、山梨、静岡から募集したけど集ったのは5人だけで、東北隊、九州隊の人間を補充して17名で始めました。

開始されたのが遅れに遅れ二ヶ月遅れに成ってしまいました。その中でブラジルへの希望者は私と青森から来た二人だけでした。沼津に入隊したのは6月に入っていたので既に梅雨時期でしたので、毎日が雨模様の曇天で富士山は全然見えませんでした。10日程した夕暮れ時に我々数人が風呂に入っていた時、静岡出身の補導員が、富士山が見えるぞと叫ぶので風呂の窓を開けると目の前に大きな富士山が見え、皆感動しました。

静岡県の裾野町から来た渡辺君と私は見慣れていたので、それ程でもありませんでしたが、他の人は皆驚いていました。雨上がりの5合目からは真っ白でそれは綺麗なものでした。

その沼津への入隊が決まった数日前に中学の同級生の渡辺氏に、近々私は沼津の方に建設機械の教習訓練の為に入隊すると伝えると、その友人は

「自分は一年ほど前から静岡県の裾野町に住む娘と文通をしている」と言われる。そして彼女は今年から沼津市内で働き始めたと言われる。

彼は今彼女に数ページの手紙を書いているので、その手紙を渡してくれと頼まれ、電話番号を教えられる。

訓練が始まり第一日曜は休日にするから、国に手紙でも書けと補導員から言われる。私は早速友人の文通相手の女性に電話して友人の手紙を渡したいと話す。彼女は裾野町からは御殿場線で直ぐ近くなるので、沼津駅の改札を出た直ぐ近くで待っていると言うので、私は了解して薄緑のズボンに白のシャツで行くと伝える。

その約束の日曜日の朝の点呼の後、補導員が今日は休日で無く野球を二手に分かれてすると言われる。我々隊員は17名、2人の補導員の内一人は審判でもう一人の補導員を合わせて18人ドンピシャリです。私が抜ける訳には行きません。

これは困ったと思い沼津駅で会う約束の女性に電話するけど、何回電話しても通じない。仕方なしに放棄してグラウンドに出て野球をする。

その夜、平の態で電話を入れて謝る。彼女は沼津駅の構内で薄緑色のズボンに白のシャツの人は沢山いたけど皆違ったと言われる。

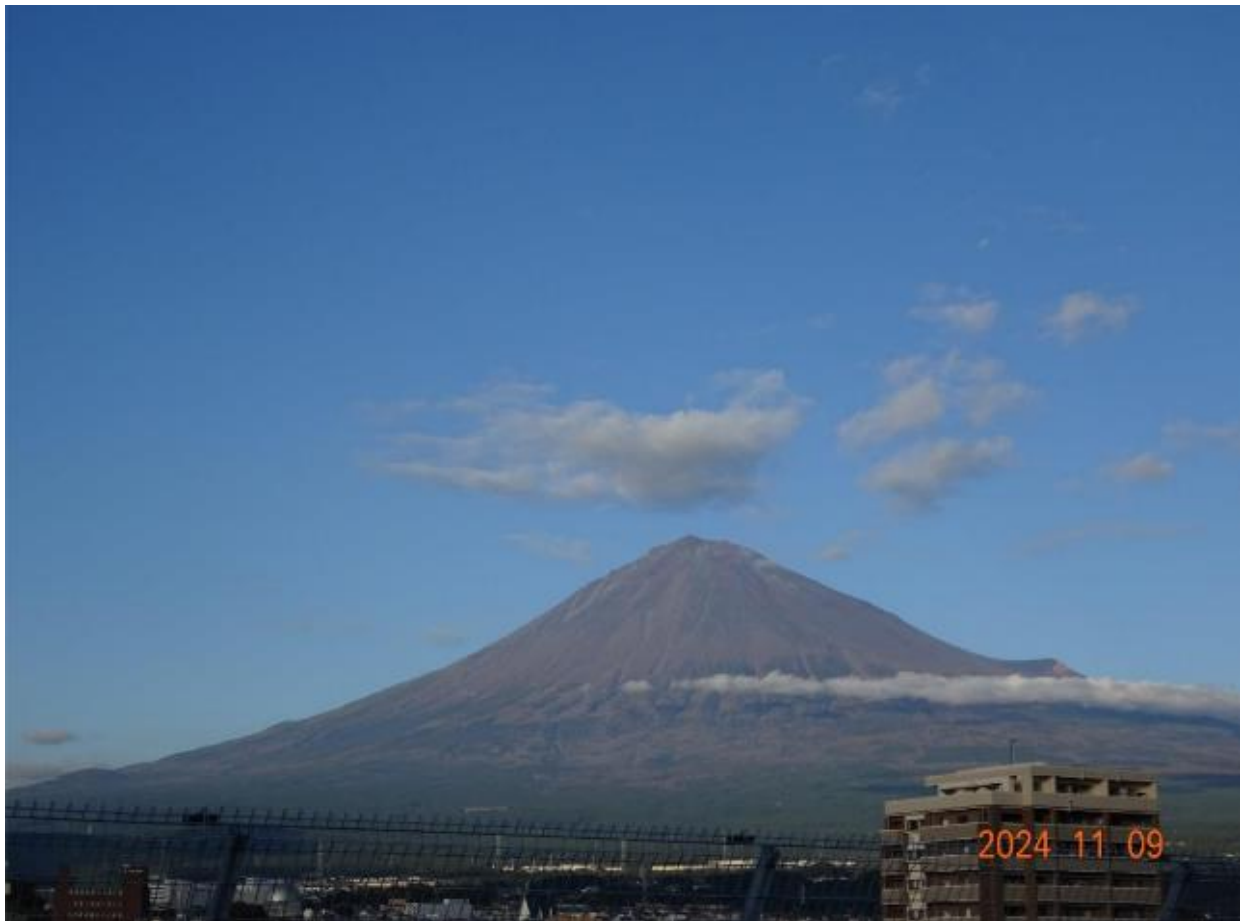
次の日曜日は良いですかと尋ねると多分大丈夫だと言うので申し訳ありませんと詫げる。次の日曜日には一発で分り友人の手紙を渡すと彼女は、文通友達は会うものではないと言われるので、私もそう思うと答える。

彼女は何を思ったのか三島に行った事があるかと私に聞く、私は沼津に来て2週間で何処へも行った事が無いと答えると、それでは三島の公園に行きますかと言われるので、お願いしますと答える。今思い出しても65年前のことなので、彼女の名前もどんな娘だったかも、行来ずれの女で何も思い出せません。国鉄三島駅は沼津から数分と近くで、昔は宿場町で随分栄えた町でした。江戸から来た旅人は国府津から山中に入り一日掛かりで歩き三島に着いた時はホットします。西から来た人も三島で一泊して十国を越えたら安心しました。

三島駅に着いて歩いて10分位の位置に楽寿園の公園がありました。

その公園の中央部に大きな噴水が有りムクムク盛り上がった綺麗な湧き水が絶え間なく噴き上げるのを見て、これが富士山の頂上から流れ落ちて来る雪解け水だと説明され大変な驚きでした。その富士山は遥か彼方に霞んで見えます。静岡県側にはこんな湧き水が富士宮にも有るといわれます。又建設大学跡地近くの白糸の滝の直ぐ近くにも大きな噴水が湧き出ていると言われますこの湧き水の温度は一年中一定していて冬の寒い時でも白糸の滝は凍結しません。

山梨県側にはこの様な大きな湧き水は有りません。富士山の噴火時に陥没した時に出来た広大な池に水が溜まり富士五湖が出来ました。西部の本栖湖の水深は100メートルを越えています。私は学校の夏休みには何回も仲間とキャンプに行つて泳ぎました。



今年の富士山の初冠雪は観測史上最も遅い11月9日で、それも少量の積雪で、この写真では雪が殆ど確認できません。来年の夏秋には三島の富士宮の白糸の滝の水量が少なくなるのではと懸念されますが、富士山の水瓶は途轍もなく大きいので何ら心配は無いと思います。130年の観測史上一度も減ることなく湧き出ているので、驚きです。



自分史 (50)

ポルトガル 10期 岡井よししげ

私、「よっちゃん」がどうしてポルトガルに行ったのか、会うたびに皆から尋ねられるので、こうしてポルトガルに行った理由を延々と述べています。

さて、幸いにも、家族と共にポルトガルに行けることになりましたが、飛行場で悶着が生じました。それは、荷物があまりにも多く、超過料金が非常に高額だったからです。家族の引っ越しですから、荷物が多いのは当然のことです。ポルトガル行きの切符を手配してくれた友人は途方に暮れ、何度も荷物の件で航空会社と交渉してくれました。その結果、荷物料金はなんとか10%値引きしてもらえましたが、さらに値引きを求めて再三交渉したところ、追加で3%の値引きがありました。

私は20%の値引きを何とかしてもらおうと思っていましたが、よく考えてみると、当時のカンピオ（為替レート）は政府（OFICIAL）と一般フリー（MERCADO FREE）の間で確か30%ぐらいの開きがあったと思います。私の頭は一般フリーの計算でしていたため、あのような勘定になったのですが、実際に支払う際の計算は政府（OFICIAL）勘定になるため、30%安くなることに気づきました。それで、安堵して荷物の支払いを済ませ、無事に搭乗することができました。心が高鳴る中、子供たちや家内がどのような心境でいたのかは分かりませんが、何より家族全員が一緒にいるというのは心強いものがあります。正月早々1987年1月3日でした。

熱いブラジルから正月三が日の余韻も冷めぬうちに、私たちはポルトガルのポルト空港に無事到着しました。友人の家に身を寄せて一息つき、翌朝目覚めると、外は一面雪景色。約10センチの積雪がありました。友人に聞くと、ポルトの街でこれほど雪が降るのはとても珍しいとのこと。

「きっと私たちを歓迎してくれたのだ」と思いました。子どもたちは喜び、雪だるまを作って遊んでいました。

ポルト市の一月は、冷え込む空気とともに冬の落ち着いた美しさが街を包み込みます。旧市街の狭い石畳の路地は、雨上がりのようにしっとりしており、歴史を刻んだ建物の壁が冬の曇り空を映しています。ドウロ川沿いのリベイラ地区では、霧がたなびき、赤茶色の屋根が幻想的な風景を作り出していました。寒い中でもカフェのテラスには温かいコーヒーを楽しむ人々が見られ、街全体に穏やかな活気が漂っていました。

そんな冬のポルトでの新しい生活は、寒さとともにさまざまな問題を抱えながらも、街の美しい風景と温かい人々に励まされて、少しずつ前向きなものになっていきました。2～3日友人の家にお世話になった後、自分たちのアパートを探し、急な階段が危ない家の2階を借りることにしました。予算の都合上、多少の不便は我慢することにしました。ブラジルでは道路で子どもたちがサッカーをしても誰も気にしませんでした。ポルトガルでは近所のおばちゃんに怒鳴られてしまい、子どもたちは驚いていました。また、ブラジルでピアノを教えてくれていた近所のおばさんのような人を探そうとしましたが、紹介されたのがあの怒ったおばちゃんだったので、結局ピアノの練習を諦めました。

その後、住み始めたアパートで大きな問題が発生。寒さ対策に電気ストーブを買ったのですが、ヒューズが頻繁に飛ぶのです。下の階の住人に相談し、太いヒューズに交換したものの、シャワーを使うとまた切れる有様。台所も電化製品だらけで、この状況では耐えられないと思い、別のアパートを探すことにしました。友人宅では電気毛布を貸してもらったものの、故障で子どもがもう少しでやけどを負うところであったので驚きました。

それでも「明日は明日の風が吹く」と楽天的に考え、やっと探し当てたショッピングセンターの2階にあるアパートを見つけました。買い物に便利で、ようやく落ち着けそうです。家族の生活を整えつつ、ポルトガルの文化や街並みに徐々に馴染んでいきました。

その後、子どもの学校や自分の仕事を準備するために動き始めました。幸運にも友人の娘の恋人アントニオさんが、大通りに面している5階建てのオフィスビルに事務所を借りて仕事をしているのを娘から紹介され、訪ねていきました。歳の頃は22歳くらいで、一人で輸出入の仕事をしようと奮闘していましたが、非常に暇そうでした。お互いに気が合ったのか、いろいろな話をして情報を交換しました。事務所は4x8mほどの広さで、二部屋があり、あとは応接間という感じでした。

彼が言うには、一部屋が空いているので、そこが良ければそこで治療の仕事がすれば良いと言ってくれました。とても有難いことです。しかし、もっとポルトガルの様子や事情を把握してからやりたいと思っていたので、彼のところにちょいちょい通って街の様子を知り、またあちこち連れて行ってもらって街の雰囲気を楽しむことにしました。

そのアントニオさんがアメリカから調理鍋を輸入して売ったりしていましたが、なかなか思うようには売れず、結局恋人の親たちが始めた

「Colchão Ortopédico」(コルションオルトペディオ)という健康ベッドを売り始めることにしました。この健康ベッドは、「よっちゃん」が最初にポルトガルに行った時に置き土産のようにして、途中で完成しなかったものを、私の友人が試行錯誤して完成させたものでした。

アントニオさんがそのベッドを売るためにセールスマンを雇い、集めた人たちを訓練するには現在の場所では狭いので、他のもっと大きい所に移転するために、私にその場所を譲ってくれることになりました。もちろん大家さんと話し合っ、そこに岡井指圧治療院を開くことになりました。そして二部屋に治療台を置き、仕事を始めることにしました。

しかし、お客を集めるにはどうしたら良いか？いろいろ考えました。新聞や雑誌に大きく宣伝すれば効果があるのは分かっていましたが、何せ先立つお金が無いので困りました。そこでパンフレットだけはしっかりと作成し、それを配ることにしました。

パンフレットには写真を載せました。それは、「よっちゃん」が指圧治療家としてブラジルでいかに信用されているか、有名人を治療しているかを見せて好感を呼ぶようにしました。写真にはボサノバのセルジオ・メンドス、俳優のデニス・カルヴァリオ、女優のクリスチアニ・トルローニ、ソーニア・ブラガなどが載せました。

当時、ポルトガルにはテレビ局が国営の一局と半日だけ放送する第二局の二局だけでした。1987年頃のポルトガルのインフレ率は9.4%で、ブラジルは230%でした。さらに1990年のブラジルのインフレは2930%の超ハイパーインフレでしたが、ポルトガルは13.8%でした。ブラジルに住んでいて、こちらに来たらまるで地獄から天国に来たようなものです。

街を歩いてウィンドウショッピングをして色々値段を調べると、どうもおかしい。1ヶ月前と同じ値段ではないか？2ヶ経っても同じ値段で、どうも分からない。しばらくはブラジルにいた時の高インフレの感覚と低インフレの感覚がマッチしませんでした。いかにインフレが生活に影響を与えるかを実感しました。

さて、あの当時友達のブラジル人で建設会社の社長夫妻が、ポルトガルに来てアパートを探し、無事購入したと聞きました。お金があるということは素晴らしいことで、良いな～と思いました。それに比べれば「よっちゃん」は惨めです。

しかし、何でも人と比べれば良いことも悪いことも感情的になり、結果として自分自身が惨めになるので、そういうことは考えずに、自分の将来

を見据えて計画を立てるようにしました。一体自分は今現在何を必要としているのかを紙に徹底的に書くようにしました。

衣食住とありますが、衣と食は現在の状況では問題ないが、やはり住む所が欲しい。それもアパートで子供がそれぞれ個室を持ち、さらに夫婦部屋以外に「よっちゃん」専用の部屋が欲しい。これはマンションですね。理想を高く持つようにしました。

これを購入してどんなものを置く必要があるか？いくらするのか？と色々と考え、想像しながら自分の生活設計を毎日ああでもない、こうでもないときを過ごしました。仕事といってもほとんどお客さんがいないので、あるのは暇な時間ばかりです。でも夢見ることは楽しいものでした。

アパートを購入するには膨大なお金が必要になります。そのためにはまず稼がなければなりません。どうして稼ぐか？お客が来るようにしないと駄目だ。それで毎日瞑想して、きっとお客がどんどん来て、とても忙しくなっている自分を想像してみました。これを繰り返し、繰り返ししていました。

その内に新聞記者が訪ねて来て新聞に載せてくれたり、テレビに招待されて出演したりと大忙しくなるぞう！といつも想像していました。指圧の患者さんもその頃ボツボツ少しずつ来るようになって、それでも週に三回ぐらい治療所に行き、後は家で皆なで貸しビデオを随分見ていましたね。

そんなある日、40歳くらいのおじさんが来て、指圧をしたいのでよろしくと言って、暇なものだからその人と色々話していたら、彼はヨガとか空手に趣味を持っていたので話が随分と弾みました。指圧が終わってから、彼は新聞記者だからあなたのことを新聞に載せてやるよと好意的に言ってくれて、実際に載せてくれたんです、とても感謝ですよ、有り難かったです。

そうしたら彼の友達で雑誌記者をしている人を紹介してくれて、指圧治療をととても気に入って雑誌に「よっちゃん」のことを2ページにわたって紹介してくれました。これらがきっかけになって患者さんが増えて来たのです。

** 叩けよさらば開かれん

** 求めよさらば与えられん

「よっちゃん」の人生は、「求めよ！」ばかりです！



被団協にノーベル平和賞 在ブラジル被爆者も感激

ブラジル日報編集長の深沢正雪様が私を取材して下さり、静岡新聞の時評欄に掲載して下さいました記事です。

サンパウロ 6期 盆子原国彦

今年のノーベル平和賞が日本原水爆被爆者団体協議会（被団協）に授与されるとの発表を受け、同様の趣旨で活動を続ける在ブラジル原爆被爆者の会の盆子原國彦さん（84歳）に感想を聞くと、「同じ志で活動をしている団体が世界的に評価されたことは、自分の事のようにうれしい」と笑顔を浮かべた。

盆子原さんは1940年6月蒲原町（現静岡市清水区）に生まれた。

「家のすぐ前が駿河湾を見渡せるきれいな砂浜でした。母がそこで天草を取ってきてトコロテンや寒天をよく作ってくれ、とてもおいしかったのを覚えています」と懐かしんだ。

1945年3月に両親と共に広島市に転居し、そこで被爆した。「5歳でしたが、今でもはっきり覚えています。爆心地から2kmの地点にあった父の事務所の中にいました。もしも外にいたらひとたまりもなかったかもしれません」とつらい記憶を振りかえる。「ピカッという閃光が走った瞬間、父は私を机の下に押し込み、私の上に覆いかぶさってくれました。おかげで私は助かりました。直後に爆風でガラス片などが飛んできて父の背中に沢山刺さっていました」という経緯で何とか生き残った。黒い雨にも降られました。

でも母と姉にはその幸運は訪れなかった。「翌日、父と一緒に爆心地まで行きき2人を必死に捜しましたが、結局わかりませんでした。「このような経験は誰にもしてほしくない。どんな理由があろうとも原爆は廃絶しなければなりません」と強く訴えた。61年にブラジルへ移住。当地で自分は被爆者だと申告した人は270人もいた。

「プーチン大統領は今もウクライナで核兵器をちらつかせて、世界を恐怖に陥れている。1日も早く核兵器禁止条約を日本も批准してほしい。被団協にノーベル平和賞が授与されたことは、（同賞）委員会の皆様がその運動に共感している意思表示でしょう。我々が死ぬ前に核廃絶を実現してほしい」と繰り返した。

2024 年度ノーベル平和賞の授賞式について

授賞式はノルウェー国のオスロ市庁舎で12月10日に執り行われます。

この式典に日本被爆者団体協議会（日本被団協）は被爆者と関係者を含めて31名の代表団を選びました。その中にはブラジルから、「在ブラジル原爆被爆者の会」を代表して渡辺淳子さま、その他韓国から2名の方、外国に在住する被爆者はこの2か国だけです。

現在広島、長崎で被爆した方々は世界30か国に在住されています。そして被爆者手帳を取得している生存者は今年3月現在で、106,825人、平均年齢は85.58歳となっています。ブラジルには現在59名が生存しています。



日 々 雑 感

サンパウロ 6期 盆子原國彦

11月に入って、リオの **URANIUM FILM FESTIVAL** の主催者から連絡があり11月12日から20日までリオで開かれる **G-20** の環境保全の会合に出席するアメリカの団体から、貴方の被爆体験を録画したいがどうかとの問い合わせがあり、了承すると11月8日サンパウロのピネエロスにある画廊で録画がおこなわれた。画廊にはアメリカ人、ブラジル人など多くの人達が集まりにぎわっていた、飾られている絵画も前衛的なものも多く久しぶりに絵画を満喫した。

11月12日にはサンパウロ州知事公邸のバンデイレランテス宮殿から招待状を頂いたので行ってきた。これは「**Premio Governador do Estado de São Paulo**」という2024年度のサンパウロ州の文化関係のいろいろな分野で活躍した人達（団体）をサンパウロ州知事が表彰する行事で、私達は演劇部門で、今年サンパウロ州内で上演された演劇の中から5つ選ばれ、その中に「3人の広島の被爆者」という我々の演劇が入っていて招待状が送られてきたようなわけです。

初めてバンデイレランテ宮殿に入りました。サロンは広く有名な絵画など飾られていて200年も300年も前の家具なども置かれて、そこで合唱など聞きながらカクテルパーティーの後、隣接の大きな近代的な劇場に入り、各部門の表彰式が行われました。各部門から1位だけ呼ばれ記念の盾をもらいました。私達は残念ながら1位にはなりませんでしたが、サンパウロ州内で5番以内に入ったというだけで、来年への励みになります。

というようなことで結構忙し日々を送っています。私は昨年11月から前立腺癌が見つかり、その後手術をするかとかいろいろあったのちに、放射線治療を受け、3か月に1度の注射で小康を保っています。しかし今度は膵臓に2cmの影が見つかり、11月28日に癌専門医の健診を受けることに事になっています。一難去ってまた一難とゆうようなことで、今年の暮れを迎えています。



大統領選はトランプの圧勝だった

サンパウロ 9期 貝田定夫

アメリカ大統領選挙は、主要メディアの「歴史的な大激戦」との予想だったが、結果はトランプの圧勝だった。選挙人の獲得数を比較してみると、トランプの312人に対してカマラ・ハリスは226人、大差をつけての勝利である。ハリスが民主党の候補者になってから、トランプに対して互角かそれ以上に健闘しているように報道されてきたが、民主党を応援する主要メディアが情報操作していたことになる。民主党は「トランプは独裁者、民主主義の敵」などと過激な非難を繰り返していたが、国民を欺くことは出来なかった。

トランプ勝因の第一は相手のハリスに大統領としての資質が無かったこと。通常、大統領選の手続きは、夫々の党において候補者が名乗りを上げ党内の選考を経て、最終的に一人の大統領候補者が選ばれる。

しかし、ハリスはこのような過程を経ていない。ボケが進んだバイデン大統領が引きずりおろされた時、党内選考の時間がないことから副大統領のハリスを候補者にした。だが、ハリスが大統領としての能力がないことは民主党内では既に知られていることだった。

ハリスは度々テレビ出演したが、質問されたことに満足に返答できず、自分の頭で考える能力のないこと、台本がないと話せないことなどを露呈していた。テレビの報道は大きな影響力を持つ。ハリスの醜態は多くの国民の目に焼き付いたことであろう。

ハリスの能力のなさは、アメリカの大新聞ロサンゼルス・タイムスとワシントン・ポストが「今回の大統領選では特定の候補者を支持しない」と発表させることになった。両紙とも長年にわたり一貫して民主党候補を支持してきた。しかし今回、ロサンゼルス・タイムスは社長の意向で「ハリス氏への支持表明をしない」ことを決定した。ワシントン・ポストも同様のことを決めている。

両紙に共通するのは社長がアメリカ経済界の超大物で、社会的に大きな影響力を持っている。その彼らが「ハリスには勝ち目がない」を見抜いて

いたようである。ちなみにワシントン・ポストの社主は有名なアマゾン創業者のジェフ・ベゾスである。

第二の勝因は、アメリカの大富豪イーロン・マスクがツイッターを買収してXに切り替えた後にトランプ支持を鮮明にして活動したこと。前回の大統領選では、トランプはツイッターから排除されて情報発信が出来なかったが、今回はXでの情報発信が自由になり思う存分に活用できた。

マスクは全面的にトランプを支持し巨額の運動資金を提供した。加えてトランプの選挙集会に参加して応援演説をするなど物心両面で支援した。マスクは単に大富豪というだけでなく、アメリカ社会に対して強い発信力を持っている。

上記の勝因の他に、物価上昇により国民が苦しい生活を強いられていること、不法移民急増により社会が不安定となり犯罪は増えていること、などがトランプの勝利を後押ししたと見られる。

また、トランプは「ウクライナ戦争を即時に止めさせる」と度々発言していたので、国民の期待は大きかったと言える。一般国民の大多数は「ウクライナやイスラエルを資金援助する代わりに生活向上のために使って欲しい」と願っている。

今回の選挙で共和党は大統領選を制し、上院と下院でも過半数の議席を確保した。共和党の主流はトランプ派であり、議会にトランプの意向が強く反映されることが確実となった。世界はトランプ政権に対する備えを既に始めている。

トランプの勝利に伴い、トランプ効果とも言うべきものが早くも出始めている。ごく最近の情報によると、アメリカへの移住を目指してメキシコを移動していた数千人規模のキャラバン隊が、当初の半分以下に縮小しているという。トランプは不法移民の強制送還を選挙の公約にしていたので、前途の厳しさを予想して断念したものと見られる。

アメリカの弱い大統領は世界を混乱させるが、強い大統領の出現は就任前から世界を変えている。トランプが戦争を終結させ、世界を平和へと導くことを期待したい。◆

ほうおうぼく
運のない男。鳳凰木3種の花。

パラナ州フォス・ド・イグアスー 単独 齋藤信夫

今年も最後の大相撲となる、九州場所が始まりました。大の里が優勝して横綱への足固めとなるか？それとも関脇、大関と位は違っても、二場所連続優勝という事で、横綱に昇進するか？もし優勝して横綱にでもなったら、大関一場所で横綱昇進という前代未聞のスピード出世となる。元旦に地震の大災害を被った、故郷石川県の人達への大きな励みになる事でしょう。



パラナ州の初夏を告げる鳳凰木 (Flamboyant フランブアヤン、別名 Flamboaiã フランボアイアン)、3種あり赤・黄・オレンジ色の花です。

すでに終了しましたが、アメリカのワールド シリーズも燃えました。

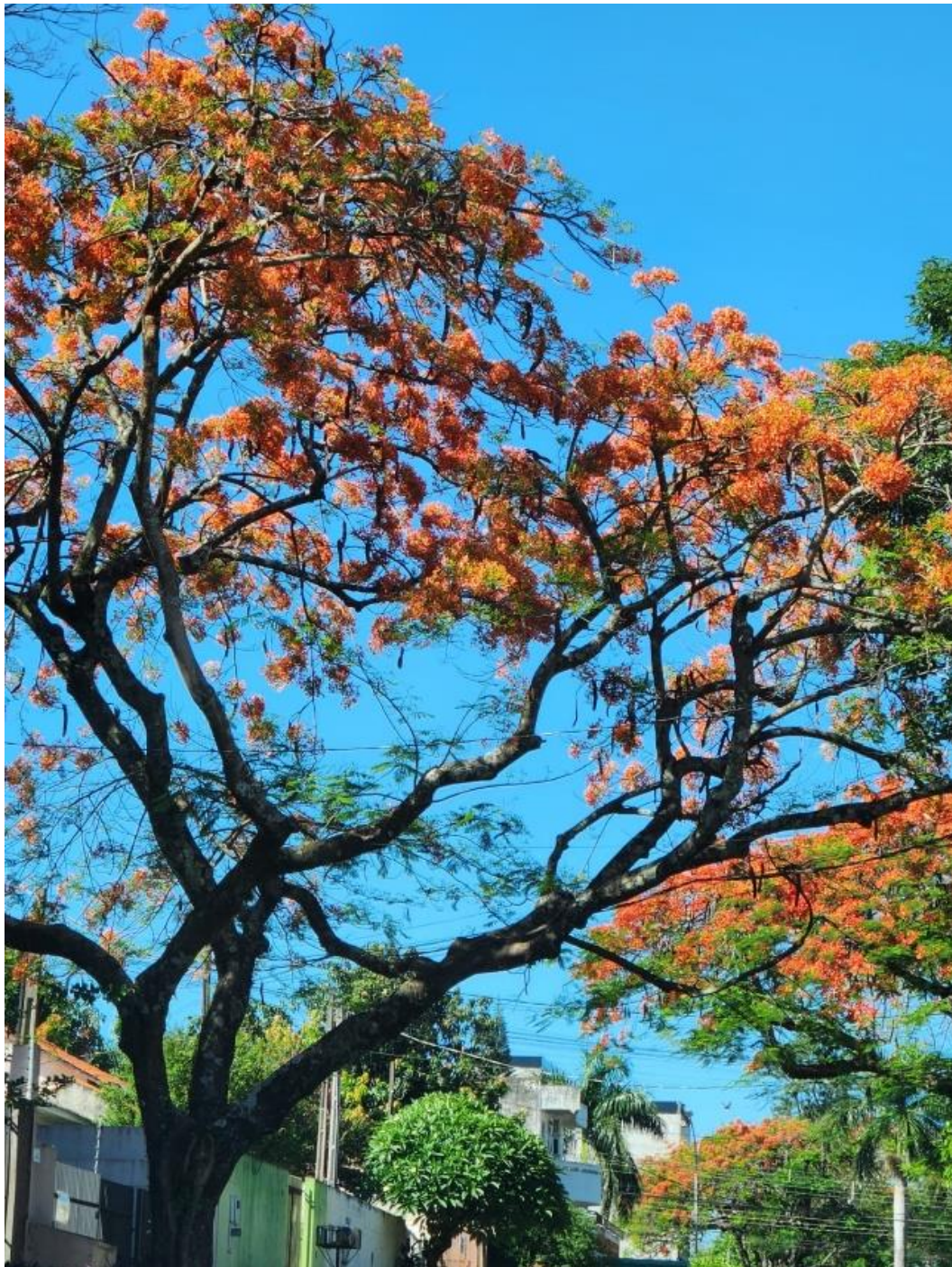
大谷は、二塁への盗塁失敗で痛めた肩のため、大した活躍も出来なかったがフリーマンがその分頑張ってくれた。そしてドジャーズはワールドチャンピオンとなった。その後大谷は肩の精密検査の結果、手術が必要という事で、手術をしたが、結果は良好という事で、来シーズンでの二刀流が楽しみだ。しかし大谷はちょっと、故障、手術が多すぎるのでは？ 心配です。テレビでスポーツを観戦するのは楽しい。コロナ禍で外出禁止、3年間仕事がなくなり、テレビの前で、ソファーに座して、オレ流カイピリーニャを飲みながら、テレビ放送を観る事が多くなった。



黄色の花です

私は、あまり年を取らない内に、海外旅行をしようと計画し、8年前から、日本、中国、アメリカへと旅行を始めた。アメリカの中央部からやや西よりにデンバーと云う街がある、ここに娘が住んでいるので、まずそこへと行き彼女をさそって、500km程の所にある、グランド キャニオンへと行きその後車を走らせ、西へ、ロスアンジェルス、ヨセミテ、サンフランシスコその後北回りで、デンバーへ。

次は日本から中国へといった。それから又アメリカへと行き今度東部地区を回った。うちの女房殿はブラジル生まれで雪の積もっているのを、まだ見たことがないというので、又日本へ、札幌の雪まつりを観に行った。



オレンジ色の花です

次は ヨーロッパだな！等と話していると、あの忌まわしい、コロナ禍が始まった。以後三年間、旅行どころか外出禁止で家籠り、毎日カイピリーニャを飲みながら、テレビを見ることが多くなった。

そして三年が過ぎた。コロナ解禁で今度はヨーロッパへでも行くか？とは思ったが、三年のコロナ生活がそういう好奇心を無くしてしまった。身体も訛って、これで海外旅行でもしたら、いざと云う時に危ないなあ、と思うようになっていた時、十年連れ添った女房が死んだ。

先の女房とは、39年連れ添ったが、膵臓癌でさきだたれた。その後3年して再婚、今年で11年共にした二度目の女房にも、先立たれた。女房運のない男だ。4月2日の未明、女房はトイレにたった。少しして、ドタン！バタン！

ぎゃー！との叫び声に飛び起きた。トイレに行くと、彼女は倒れ右腕で左の肩を抑えていた、左の手首の所も、痛そうにしている。取りあえず、抱き上げベッドに運んだ。そして夜明けを待って病院へと連れて行った。

しばらく待たされ、レントゲンを撮り、手術は昼前頃になるだろう。との事だった。しかし昼になっても医者は来ず、しばらく横になって待つ事になる。

ブラジルの病院には、専門医、腕のいい医者はいない。腕のいい医者は、自分で診療所をもって、そちらに常駐してるが、予約のない急患は難しい。

結局夕方になって、やっと手術ができた。すると病院側に、何かあると大変だからと、入院させられ、入院料、薬代、夜の諸経費を前払いさせられ、入院という事になった。翌日10時頃に退院、帰宅する事になった。帰宅し車庫から歩いて我が家の入り口で、私がドアのカギを開けようとした時、後ろに立っていた女房のギゃー！という声に振り返ると、女房はひっくり返り床に頭を打ち付けていた。娘が飛んで来て、二人で彼女を抱え上げ、ベッドに運んだ、頭をみると小さなこぶができていた。それで直に自動車へ車椅子で運び、又病院へと向かった。病院でレントゲンを撮り又一晩入院となった。医者が言うには、頭内にちょっと出血があるが、大丈夫との事で翌朝帰宅する事にした。医者は問題ないと言って居たが、以後問題ないどころか、大問題となった。やはり頭を打ち付けたので、出血は少々にしろ、脳に異変が起きていたのだ。以後左半身不随、耳もだんだん聞こえなくなり会話も出来なくなった。家と病院を往復した。

そしてある日様態がおかしいぞ！と気づいた。そこで救急車を呼び今度は今までとは違う市営病院へと向かう。

ここに SUS と云う制度がある。この制度は全て無料でやってくれます。ただ付き添いは家族の誰かがしなければならないので、私がしますと言ったら、80才以上はダメとの事で、看護師を昼と夜に一人ずつ、二人を頼みました。これは、私持ちです。そして結局40日入院して8月4日に永眠しました。こちらの病院の方が、最初行った病院よりも、良くしてくれました。女房は亡くなりましたが、感謝です。ブラジルには良い制度がありますね。

女性の場合、連れ合いの亭主に先立たれても、以後の生活にそれほど大差はないように思います。掃除、洗濯、料理等家事一般同じ生活が続きます。しかし男の場合は大分と変わります。今まで家事一般殆どを女房任せであったものが、やもめになると、今度は全て自分でやらねばならず、生活が一変する。

私は二度、女房に先立たれ、又一人の生活が始まった。今度は一人のオバさんを頼んで、週一度掃除に来てもらい、二週間に一度洗濯をしてもらっている。

しかし食事の方は、私好みもあるので、自分でケマ・ラッタ（懐かしい言葉だ）をしたり、街でポル・キロ（por kilograma、従量制）で弁当を買ったりしてる。

自分で自炊をしてると、時には面倒になる。夕方ソファーに座して、オレ流カイピリーニャ等飲んでいると、夕食など作るのが面倒になり、肴をたくさん食べ「夕食なんかもういいや！」っていうことになるのもしばしば。

82歳になろうと云うに、再再婚はあり得ない。今後何年生きるかわからないが、マッ！無理をせずに、行けるとこまで行くか！



【備考】ケマ・ラッタは Queima lata で、queima は燃やす・温めることで、lata はブリキ缶のこと。ここではフライパンか鍋で料理する意味です。

ペルー国の港湾建設について

ジュンジアイ 9期 荒木昭次郎

先日、11月14日にペルー国の太平洋岸のチャンカイ市に建設中だった巨大港湾の建設が完成して、中国の首相の参加で開港式典が開かれました。この港湾の建設には中国資本が主導で完成したので、これからのこの地域からの輸出に多いに利用される予定となっています。

1914年頃から特に中国を中心に中南米との交易が必要を感じ、南米横断鉄道計画が考えられ、ブラジルからペルーに渡る鉄道が考案されました。その路線と工事計画については中国が強大に参加を示し、この先中南米、特にブラジルからの鉱物、農産品などの輸出が、どうしてもアジア一帯への輸出の増加を感じ、三国の会合が持たれていました。

太平洋岸で輸出に最適な地としてペルーのチャンカイ市がペルーの首都に80kmと近い将来を見越した港湾建設を考え選ばれました。当時のブラジルは国内の仕様に忙しくブラジル国内の鉄道建設にはあまり関心がなく、港湾建設の会合には参加していませんでした。しかし中国とペルーの間では将来海外輸出用の広大な港湾建設の必要性を感じての合意があって、中国の工事費用参加に加わってチャンカイ港に巨大港湾建設が決まっていました。

当時のアジア地方で特に中国での工業品製造が盛んになり、南米地方から出産される鉱物資源とか大量に出産される農産物の輸送が必要になっていた時期で、運送リミッチを越えたパナマ運河通過を避けたルートが必要な時期で、この通過ルートはどうしても完成させたい事で今度の港湾建設の完成に至りました。

これからはブラジルとペルーが会合して「南米横断鉄道」路線の決定と完成の時期を決め、決行する事です。



当年にとって、なんと 85 歳！

広島県 6期 三戸伸晃

いやハヤ、当年にとってなんと 85 歳！の老境に。我ながら「魂消えて居る！」何時の間にヤラ、かように「齢？」を執ったのだろうか？ と驚いて仕舞う。自分では、まだまだひねた「若い衆？」の心算で暮らして居るのだった。

けれど、ある日突然に「アラマッ！」儂は知らぬ間に 85 歳の老境マッシグラ、イヤハヤ此れは「大変な事に成っている！」と気が付いた。

つい少し昔なら、まだまだ健康体を保てるならば、後 10 年や 15 年は十分に元気ハツラツに生き永らえる事は「大丈夫！」だろう。ん？

なんも「心配」は無用！と考えていたけれど、フト気が付けば人生 85 歳といえば、もう十分に「生き永らえた！」年月に達している事に「気が付いた」

考えてみれば、一般の日本人男性は 85 歳の老境になれば、殆どの男はお爺さんと呼ばれて、「悠々自適なご老人」と尊敬されている筈。イヤハヤ。

ハテサテ、儂も考えてみれば「健康体」を表面にして「元気な爺さん」を演じている。ワシは「無病息災」で、病らしい病気で医者のお世話を受けた記憶は殆どナイ。思えば 20 年昔に心臓発作で「日赤病院」に入院してペース・メーカーを左胸に挿入しただけで、今日まで一切「病らしい病」はナイ。

人間は健康体で有れば精神的にも「健康に生きられる」筈。ヒトツしかない自分の「人生」は出来る限り「長持ち？」させて、残りの人生をあと 10 年位は「長生き」したい。出来るかなあ。

まだまだ元気が売り物の三戸ジジイかな。



表紙の富士山の写真の頂上付近を望遠レンズで撮影



富士山に降った雪と雨が地中に入り裾野で出てきての川

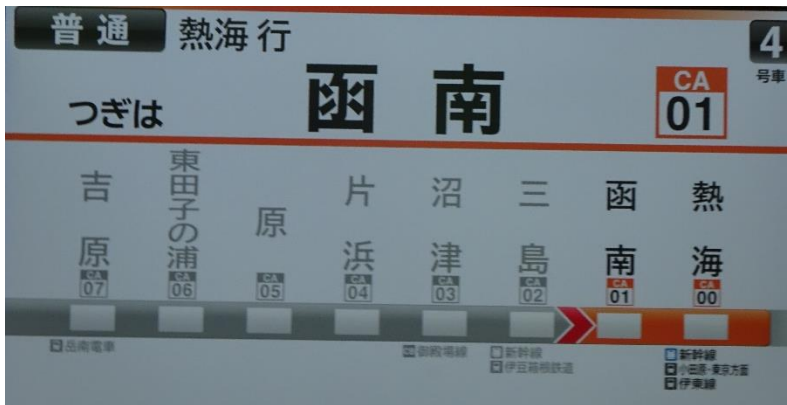


何年前に降った雪が溶けたものかは分かりません
飲んでも良いと思うほど、透き通ったきれいな水です ◆

かんなみ ならやま あたみ
 東海道線で函南へ行き、韮山と熱海を訪問しました
 2024年11月13日でした。 富士宮 8期 志方進



今回は下車しなかった
 三島駅ホーム案内板。
 いずれ訪問予定です。



下車した函南駅ホーム
 の案内板です。
 家内の学友が住んでい
 るのでここを訪ね、案
 内してもらいました。



函南駅手前を走行中の
 東海道線列車の内部。



函南駅ホームと停車中
 の列車です。



函南駅から見た丹奈^{たんな}
トンネルの入り口。



斐山の収穫が終わった
田んぼ。



日干し中の稲穂で、
昔ながらの風景だ。

昔、こんな所でワラ
ビを採りました。



母方の祖父の生地の
当時の地名は静岡県
たがたくん なかごうむら あざ やすひさ
田方郡 中郷村 字 安久
で、現在の三島市安
久町ですが、その地
やすひさ
名の安久の標識があ
りました。



函南の友人宅から箱
根の山やじゅっこくとうげ十国峠が
見えました。



ここからは熱海で
す。昔、住んでいた
家の前庭だった所
には、別の家が建
っていました。
ここには1953年
3月に中学校を卒業
するまで住んでい
ました。



昔はビルと点前の住宅が無かったので、海がもっと良く見えました。

街の南側 1 k m の
にしきがうら錦ヶ浦の岩場です。



子供の頃は上級生に連れられて 5 ~ 10 人前後のグループでサザエやアワビを取りに週 2 ~ 3 回行っていました。もりでカサゴや伊勢海老やタコも捕りました。

家に帰るとお母さんが料理してくれ、美味しかったです。なつ懐かしい思い出です。



海岸からさがみなた相模灘内に見えるはつしま初島です。



にしきがうら あじろ
錦ヶ浦から見た網代
方面の景色。

遠方の山の手前が
網代で、向こう側は
伊東です。



熱海市内の人気店に
集まっている観光客
多数。



熱海駅入り口。
東海道線と新幹線は
ここから入って乗車
します。
帰りはここから東海
道線に乗りました。



【編集委員メールアドレス、ご連絡用電話番号】

そ が よし なり
曾我義成 ysoga@rimobloco.com.br 事務所(Escritório) 11-4057-2377
携帯(Tel. Celular) 11-97120-0863

ぼんこはらくにひこ
盆子原国彦 kbonkohara@live.jp 自宅(Residência) 11-3721-1127
携帯(Tel. Celular) 11-97431-9994

おさだたかとし
長田譽歳 takatoshi.osada@gmail.com 自宅(Residência) 11-5563-6929

はやかわかずみち
早川量道 kazumichihayakawa43@hotmail.com
携帯(Celular)15-99778-3107

しかたすすむ
志方進 ssshikata@gmail.com 日本では 070-9087-8862

皆様ふるってご投稿ください。ご投稿を受信しましたら、着信通知を発信しておりますが、ご投稿の到着を確認してください。
ご意見、ご提案、お叱りなどもお寄せください。

【次号予定、お願い】

次号は2月上旬に発行予定です。

ご投稿は1月21日(火)までにお問い合わせ致します。

【編集後記】

今号もご投稿をありがとうございました。

皆様どうぞお元気で過ごされ、良き新年をお迎えください。